# ひきこもり等子ども・若者相談支援センター
# 枚方市ひきこもり等地域支援ネットワーク会議
# 平成２８年度の記録（案）

枚方市子ども青少年部子ども総合相談センター

となとな

# 目　次

【１】ひきこもり等子ども・若者相談支援センター
１．平成28年度月別延べ相談件数　1 p
２．場所　1 p
３．相談員　2 p
４．相談方法　2 p
５．相談対象者　2 p
６．相談内容　5 p
７．支援内容　6 p

【２】市民啓発等
１．子ども・若者支援のための市民連続講座　9 p
２．職員による出前講座等　10 p
３．子ども総合相談センター「となとな」
オープニングイベント　11 p

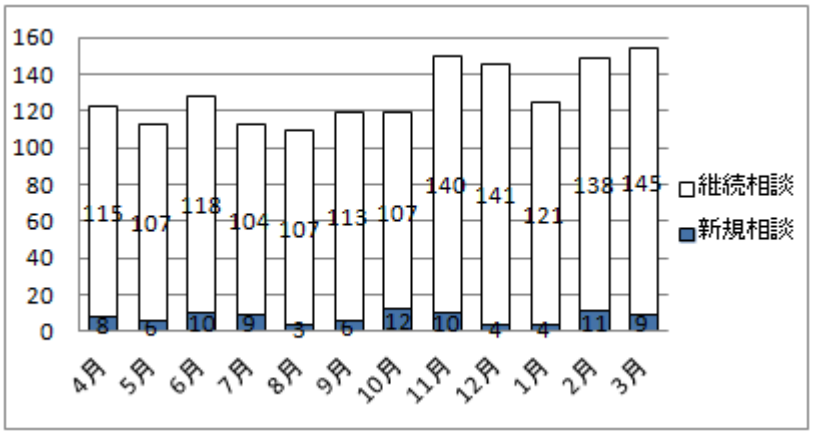
【３】枚方市ひきこもり等地域支援ネットワーク会議
１．平成28年の活動状況　12 p
２．平成27年度ネットワーク会議参加（案内）機関　13 p
３．全体会議の会議録　14 p

［資料1］　「ひらぽう」第９報～第１４報
［資料2］　「子ども・若者支援のための市民連続講座」チラシ
［資料3］　「オープニングイベント記念講演会」チラシ
［資料4］　「子ども総合相談センター「となとな」」リーフレット
［資料5］　「ひきこもり家族会と行政の連携について考えるシンポジウム」チラシ
［資料6］　「枚方市ひきこもり等地域支援ネットワーク会議設置要綱」

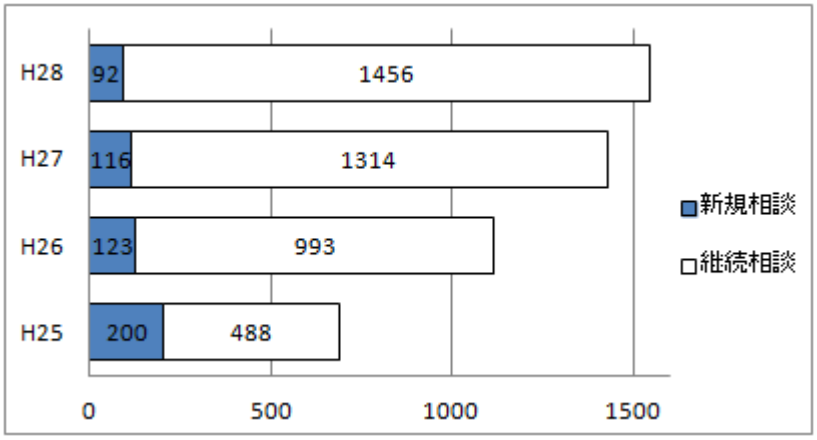
## 【１】ひきこもり等子ども・若者相談支援センター　　［資料 1］

### １．平成 28 年度月別延べ相談件数

新規相談が 92 件、継続相談が 1,456 件、合計延べ相談件数は 1,548 件でした。




継続相談の積み重ねが延べ相談件数の増加につながっています。

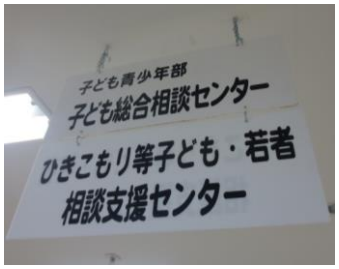



### ２．場所

**○ 枚方市子ども総合相談センター・となとな内**

平成 28 年 4 月、機構改革により、子どもやその家族の多様化・複雑化する相談に総合的に対応するため、ひきこもり等子ども・若者相談支援センター、家庭児童相談所、ひとり親家庭等自立相談窓口を集約した、子ども総合相談センター・となとな内にて再スタートしました。

10 月からは、サンプラザ 3 号館 4 階に移転し、専用の相談室も増設されました（2 室）。



## ３．相談員

**○ 臨床心理士等の専門相談員が対応**

臨床心理士３名、社会福祉士１名の４名体制で対応しています。

相談員のスキルアップのため、2 か月に 1 回ひきこもり等の支援について外部講師より助言をもらうスーパービジョンを実施し、各種研修へも参加しました。また、相談員同士の情報共有の場を毎週 1 回、枚方若者サポートステーションとの共有会を月 1 回行いました。

## ４．相談方法

**○ 電話相談と面接相談　（専用電話を設置）**

| | H25 | H26 | H27 | H28 |
|---|---|---|---|---|
| 面接相談 | 540 | 1029 | 1289 | 1348 |
| 電話相談 | 148 | 87 | 141 | 200 |
| 計 | 688 | 1116 | 1430 | 1548 |

平成 28 年度は、面接相談が延べ 1,348 件、電話相談が延べ 200 件でした。直接お会いし時間をかけて相談をお受けすることが多いですが、相談者に応じて使いわけています。

## ５．相談対象者

＜年齢＞

**○ 相談対象者は、おおむね 15 歳（中学卒業後）から 39 歳まで**

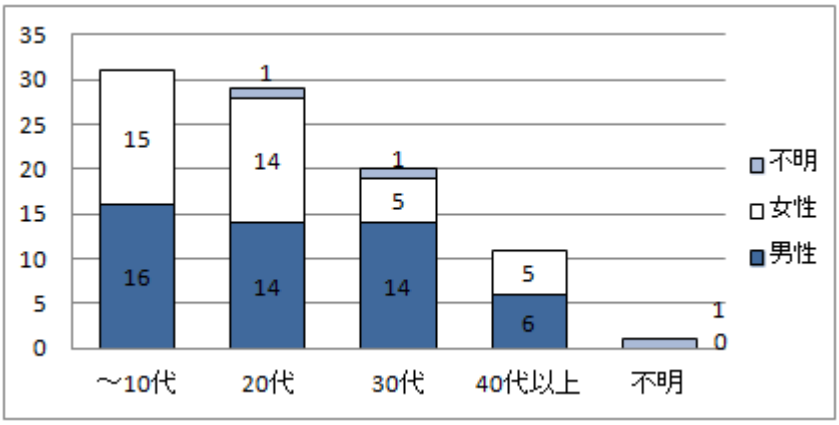
（40 代以上の方のご相談もお受けしています。）

平成 28 年度は、10 代が一番多く、20 代、30 代と続きます。15 歳から対象ということを考えると、10 代の多さは特徴的です。また、一定数 40 代以上の方の相談もあるという現状がみられました。

**年代×性別**

| | ～10代 | 20代 | 30代 | 40代以上 | 不明 | 計 | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 男性 | 16 | 14 | 14 | 6 | 0 | 50 | 54.3% |
| 女性 | 15 | 14 | 5 | 5 | 0 | 39 | 42.4% |
| 不明 | 0 | 1 | 1 | 0 | 1 | 3 | 3.3% |
| 計 | 31 | 29 | 20 | 11 | 1 | 92 | |
| | 33.7% | 31.5% | 21.7% | 12.0% | 1.1% | | |

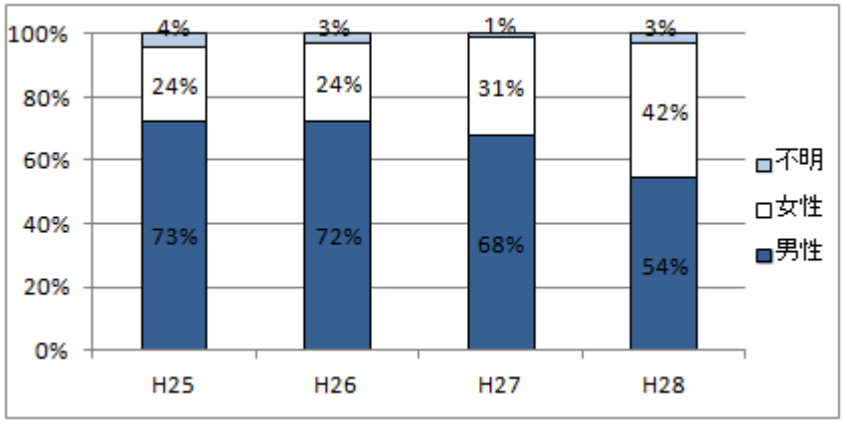
（新規相談 92 件より）




＜性別＞

男性対象者についての相談の方が多い点は変わりませんが、少しずつ女性対象者についての相談の割合が増加しています。

| | H25 | | H26 | | H27 | | H28 | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 男性 | 145 | (72.5%) | 89 | (72.4%) | 79 | (68.1%) | 50 | (54.3%) |
| 女性 | 47 | (23.5%) | 30 | (24.4%) | 36 | (31.0%) | 39 | (42.4%) |
| 不明 | 8 | (4.0%) | 4 | (3.3%) | 1 | (0.9%) | 3 | (3.3%) |
| 計 | 200 | | 123 | | 116 | | 92 | |

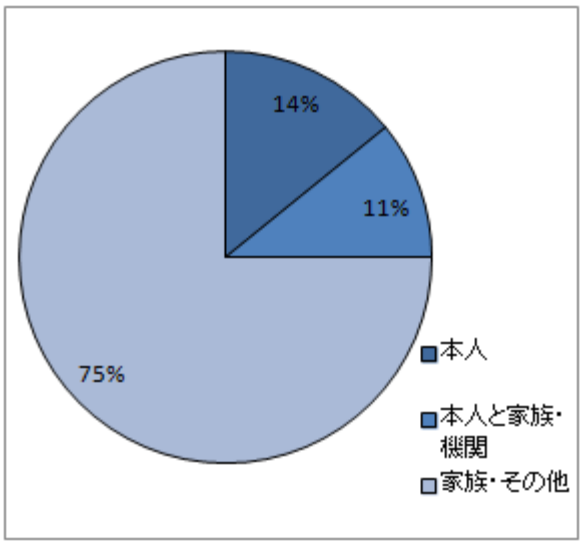



＜相談者＞

○ 相談は、ご本人とご家族、関係者の方が対象

―初回相談者―

| | | |
|---|---|---|
| 本人 | 13 | 14.1% |
| 本人と家族・機関 | 10 | 10.9% |
| 家族・その他 | 69 | 75.0% |
| 計 | 92 | |



初回相談の割合は、75.0%がご家族からです。
まずはご家族との定期的な継続相談を続け、徐々にご本人とつながっていくことを目指していきます。

| | H25 | | H26 | | H27 | | H28 | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 本人 | 10 | (5.0%) | 9 | (7.3%) | 10 | (8.6%) | 13 | (14.1%) |
| 本人と家族・機関 | 4 | (2.0%) | 8 | (6.5%) | 6 | (5.2%) | 10 | (10.9%) |
| 家族・その他 | 186 | (93.0%) | 106 | (86.2%) | 100 | (86.2%) | 69 | (75.0%) |
| 計 | 200 | | 123 | | 116 | | 92 | |

―経路―

| | H27 | | H28 | |
|---|---|---|---|---|
| 関係機関 | 37 | (46.3%) | 34 | (51.5%) |
| 広報 | 10 | (12.5%) | 12 | (18.2%) |
| ホームページ | 16 | (20.0%) | 7 | (10.6%) |
| 知人 | 3 | (3.8%) | 2 | (3.0%) |
| その他 | 14 | (17.4%) | 11 | (16.7%) |
| 計 | 80 | | 66 | |

（新規相談の内、聴き取りを行った分）

ひきこもり等子ども・若者相談支援センターを知ったきっかけは、関係機関からの紹介が51.5%（地域若者サポートステーション、家庭児童相談担当、医療機関、高等学校、若者支援関係NPOなど）、広報（10月号に子ども総合相談センターについて掲載）やホームページが次いで多くなっています。「その他」の中には、コールセンターよりつながったもの、既にご家族やきょうだいが相談しているというものがありました。

＜居住地＞

| | H28 | |
|---|---|---|
| 市内 | 79 | 85.9% |
| 市外 | 9 | 9.8% |
| 不明 | 4 | 4.3% |
| 計 | 92 | |

対象は市内在住の方ですが、市外の方からの相談もありました。一旦お聴きして、他市で利用できる相談窓口の情報提供を行うまでの対応をしています。

## ６．相談内容

**○ 相談内容は、ひきこもり、ニート、不登校に関するものが対象**

平成 28 年度の相談内容は、ひきこもりと準ひきこもり相談が合わせて 45.6%、続いて不登校相談が 16.7%、就労相談が 13.2%でした。

| ひきこもり | 準ひきこもり | 不登校 | 就学 | 就労 | その他 | 計 |
|---|---|---|---|---|---|---|
| 21 | 31 | 19 | 1 | 15 | 27 | 114 |
| 18.4% | 27.2% | 16.7% | 0.9% | 13.2% | 23.6% | |

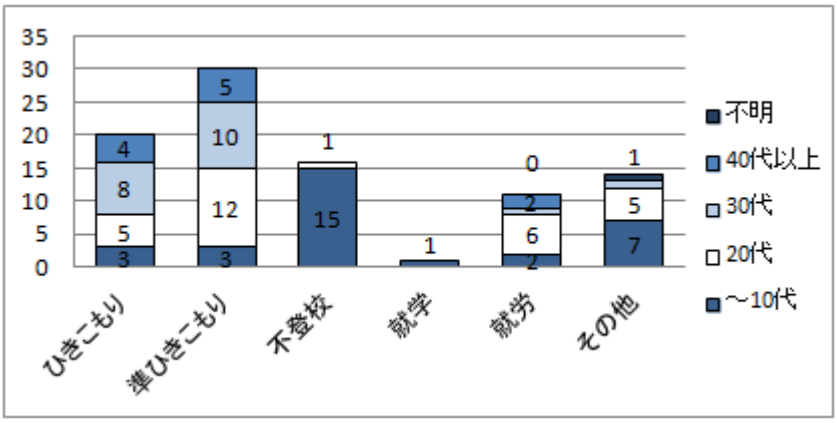
（相談内容の複数選択あり）

ひきこもりと準ひきこもり相談は、20 代と 30 代が中心ですが、それぞれ各年代からの相談がありました。

年代×内容①

| | ひきこもり | 準ひきこもり | 不登校 | 就学 | 就労 | その他 | 計 | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| ～10代 | 3 | 3 | 15 | 1 | 2 | 7 | 31 | 33.7% |
| 20代 | 5 | 12 | 1 | 0 | 6 | 5 | 29 | 31.5% |
| 30代 | 8 | 10 | 0 | 0 | 1 | 1 | 20 | 21.7% |
| 40代以上 | 4 | 5 | 0 | 0 | 2 | 0 | 11 | 12.0% |
| 不明 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 1 | 1 | 1.1% |
| 計 | 20 | 30 | 16 | 1 | 11 | 14 | 92 | |
| | 21.7% | 32.6% | 17.4% | 1.1% | 12.0% | 15.2% | | |

（新規相談 116 件より）




※年代と相談内容別の件数は、主な相談内容をひとつにして集計しています。

## ７．支援内容

**○ １回の電話及び面接相談で、助言や適切な窓口につないで終了したケース**

新規相談 92 件中、43 件でした。終了の例としては、適切な支援機関の情報提供や資源の整理、家族の関わり方についての助言を行ったものなどです。

（情報提供支援機関）

若者支援関係 NPO 等、枚方市保健所、他市相談窓口、枚方市居場所支援事業「ひらぽ」、地域若者サポートステーション、家庭児童相談所、医療機関など（多かったものを抜粋）。

**○ 複数回の相談を重ねて助言や他機関へのつなぎをしたもの、または継続相談となっているケース**

新規相談 92 件中、49 件でした。

平成 28 年度末で継続相談中のケースは 94 件です。その内、ご本人と継続相談中が 52 件、ご家族と継続相談中が 64 件です。

ご家族とご本人両方の相談をお聴きしているケースも 22 件あります。

| | H25 | H26 | H27 | H28 |
|---|---|---|---|---|
| 各年度、3.31時点で継続相談中 | 50 | 72 | 82 | 94 |
| 本人と継続相談中 | 17 | 36 | 47 | 52 |
| 家族と継続相談中 | 38 | 56 | 72 | 64 |
| （内）本人と家族と並行で継続相談中 | 5 | 20 | 37 | 22 |

（H25年度からの継続相談も含む）

**○ 訪問支援**

| | H25 | H26 | H27 | H28 |
|---|---|---|---|---|
| 家庭訪問 | 22 | 40 | 53 | 49 |
| 同行訪問 | 11 | 18 | 25 | 22 |
| 計 | 33 | 58 | 78 | 71 |

継続相談の中で、必要に応じて訪問支援を行いました。

ご自宅へ伺って、ご本人のお話をお聴きする家庭訪問は、49 件、ご本人やご家族と一緒に各窓口に同行する、同行訪問は、22 件ありました。

（同行訪問先）　地域若者サポートステーション、就労体験の職場、市役所各窓口、福祉関係事業所など

○機関連携

| | |
|---|---|
| 機関連携 | 52 |
| その他支援（手紙など） | 10 |

※11月より集計

ご本人やご家族の了承の元、他機関に紹介するための事前連絡や、状況の共有、支援のための協議など､機関との連携を行いました｡また、本人へ手紙を送るなど、様々な支援の方法を検討しています。

○居場所支援「ひらぽ」

ひきこもり等の子ども・若者が社会に参加するきっかけとするためのスモールステップとしての居場所支援「ひらぽ」を、枚方公園青少年センターを中心に実施しています。相談支援センターの相談者を対象に、相談員との１対１の関係からステップアップし、5、6人の集団での活動を通して社会とのつながりを築いていくことを目指します。実際の活動においては、専門のコーディネーターを設置し､「サポートフレンド養成講座」を受講したサポートフレンド（登録者 31 名）の協力を得て、料理やゲーム、スポーツや外出イベントなどの活動を行いました。

また、NPO フェスタへの参加や、女性中心の会、月１同好会（男性中心)、地域の新聞販売店のご協力を得てポスティング体験など、より一人ひとりに合ったプログラムを検討することで、初めてひらぽに参加する若者が挑戦しやすいように工夫しています。

平成 28 年度新たな試みとして､経験を積み慣れてきた方が､さらにもうワンステップ進んでいく「ひらぽ Ver2.0」を設定しました。居場所の準備段階から参加したり、参加しはじめのメンバーのフォローをしたり、ボランティアスタッフに近い立場での参加をするものです。主体的に動いていくことや､「ひらぽ」の先輩として支援する役割を担うことで、自信と社会性をより身につけていくことを目指します。社会的自立に向けて、居場所支援「ひらぽ」からの卒業を意識したステップでもあります。

居場所支援と並行して、個別の面接相談も継続することで、一人ひとりに合った支援を行っています。

平成 28 年度は、毎週水曜日と、他の曜日に月 2、3 回開催し、計 80 回、参加延べ人数は 333 人でした（実人数 24 人／平成 27 年は 17 人、平成 26 年度は 7 人)。

| | 4月 | 5月 | 6月 | 7月 | 8月 | 9月 | 10月 | 11月 | 12月 | 1月 | 2月 | 3月 | 計 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 開所回数 | 6 | 6 | 7 | 7 | 7 | 8 | 6 | 7 | 6 | 6 | 7 | 7 | 80 |
| 参加延べ人数 | 30 | 27 | 22 | 25 | 26 | 30 | 24 | 25 | 36 | 20 | 33 | 35 | 333 |

また、居場所支援に携わるサポートフレンドを対象に隔月、研修会を実施した他、市の連続講座、府主催のひきこもりサポーター養成研修をサポートフレンドのためのフォローアップ研修としました。

居場所支援「ひらぽ」を中心に、ひきこもり等子ども・若者相談支援センターの取り組みを周知するため、通信「ひらぽう」を発行しました。

## ○家族の会

| | |
|---|---|
| 実施回数 | 11 |
| 参加延べ人数 | 54 |

月に1回、相談支援センターの相談者を対象に同じ悩みを持つ家族の相互理解や交流を目的として、家族の会を開催しました。

平成28年度は実施が11回、参加延べ人数は54人でした。

2時間の内、前半はテーマを設け、支援機関等からの情報提供の時間とし、後半は日ごろの子どもとの関わりなど、各自が自由に思いを語り合う時間としました。また、交流もかねて調理イベントを行いました。親自身が‘楽しむ’ことを体験する時間となりました。

| | |
|---|---|
| 4月 | 子ども総合相談センターについて |
| 5月 | ひきこもり等子ども・若者相談支援センターについて【子ども総合相談センター】 |
| 6月 | 若者の就労支援について【枚方若者サポートステーション】 |
| 7月 | 発達障害について【北摂杉の子会】 |
| 9月 | お金のことについて【日本生命保険相互会社・ファイナンシャルプランナー】 |
| 10月 | 障害福祉について（障害年金、手帳など）【障害福祉室】 |
| 11月 | 福祉的就労について【枚方市障害者就業・生活支援センター】 |
| 12月 | 年金について【年金児童手当課】 |
| 1月 | フリーテーマ |
| 2月 | 生活保護について【生活福祉室】 |
| 3月 | 調理イベント・交流会 |

開催日時は毎月第2金曜日午後2時～4時
8月は休み

## 【２】市民啓発等

［資料 2］

### １．子ども・若者支援のための市民連続講座 ―ひとりひとりが自分らしく―

ひきこもり等の問題とひきこもり等子ども・若者相談支援センターについて、市民により広く、深く知っていただくために連続講座を企画しました。
4回実施し、延べ237名の参加をいただきました。関係機関や相談を行っている当事者(親)の参加も多く、ひきこもり等の若者の現状と支援について理解を深める機会となりました。

【第1回】
日時：平成28年11月7日(月) 14:00～16:00
場所：枚方市総合福祉会館（ラポールひらかた）研修室１
テーマ： 子ども・若者の自立と地域支援－地域臨床心理学の視点から－
講師：石田 陽彦さん（関西大学臨床心理専門職大学院教授）
参加者：47人

【第2回】
日時：平成28年11月27日(日) 14:00～16:00
場所：枚方市総合福祉会館（ラポールひらかた）大研修室
テーマ：ひきこもりの若者を取り巻く状況
講師：斎藤 環さん（筑波大学大学院人間総合研究科教授）
参加者：112人

【第3回】
日時：平成29年1月21日(土) 14:00～16:00
場所：枚方市総合福祉会館（ラポールひらかた）研修室1
テーマ：若者の就労体験プログラムとキャリア教育
－通信制・定時制高校の生徒たちを支える仕組みへ－
講師：今井 紀明さん（認定ＮＰＯ法人Ｄ×Ｐ理事長）
参加者：33人

【第4回】
日時：平成29年2月4日(土) 14:00～16:00
場所：枚方市総合福祉会館（ラポールひらかた）研修室1
テーマ：生きにくさを抱える発達障害の若者の理解と支援
講師：橋本 和明さん（花園大学社会福祉学部臨床心理学科教授）
参加者：45人

## ２．職員による出前講座等

生涯学習課で実施している「職員による出前講座」に「若者の置かれている現状 －ひきこもり・ニートを中心に」「青年期の心模様」の2つをメニューとして上げています。平成28年は、1回申込があり、実施しました。また、団体等から直接の講座の依頼もあり、対応しました

①職員による出前講座
団体名：招提中学校地域教育協議会
日時：平成28年8月28日(金)10:00～11:00
場所：招提中学校　　参加者：50人
テーマ：1)若者の置かれている現状について
2)青年期の心模様

②枚方市自立支援協議会 精神障害者地域生活支援部会
日時：平成28年9月23日(金)14:00～16:30
場所：枚方市総合福祉会館（ラポールひらかた）
テーマ：若者の置かれている現状 －ひきこもり・ニートを中心に－

③青少年育成指導員連絡協議会 北部ブロック研修
日時：平成28年11月26日(日)14:00～16:00
場所：殿山第二小学校　　参加者：40人
テーマ：1)若者の置かれている現状について
2)青年期の心模様

④枚方市コミュニティ連絡協議会 北部ブロック 地域リーダー育成研修会
日時：平成29年1月22日(日)10:00～12:00
場所：牧野生涯学習市民センター　　参加者：110人
テーマ：1)若者の置かれている現状
2)青年期の心模様

## ３．子ども総合相談センター「となとな」オープニングイベント

［資料３・４］

平成 28 年４月の枚方市の機構改革により、子どもやその家族の多様化・複雑化する相談に総合的に対応するため、家庭児童相談所、ひきこもり等子ども・若者相談支援センター、ひとり親家庭等自立相談など、相談窓口及び相談機能を集約し、関係機関との連携を図りつつ、切れ目なく適切な支援施策につなげるため、子ども青少年部に新たに子ども総合相談センターを設置しました。９月までは、庁舎の都合上、枚方市役所別館５階（ひきこもり等相談とひとり等相談）とサンプラザ３号館４階（家庭児童相談）とに分かれて相談をおこなっていましたが、10 月よりサンプラザ３号館４階に総合的な窓口をオープンすることとなりました。

オープンにあたって市民に愛称を募集したところ、52 件の応募があり、選考の結果「いつもとなりで見守っていますよ」という意味で「となとな」と決定しました。12 月には、子ども総合相談センターを広く周知するため、オープニングイベントを行い、市長から愛称「となとな」を発表後、記念講演会を実施しました。

また、周知のためのリーフレットを作成しました。

＜オープニングイベント記念講演会＞

日時等：平成28年12月2日(金)10:00～12:00　メセナひらかた会館

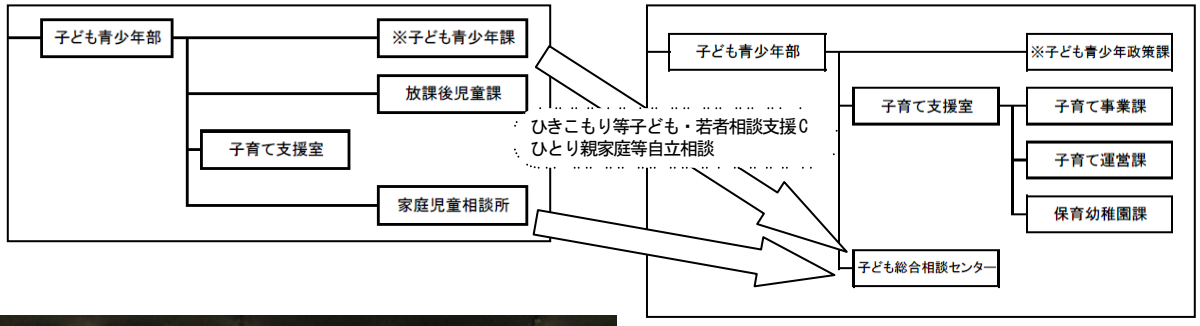
テーマ：いくつになっても迷ったり悩んだり

～『子どもって願ったようには育たない』ことにヒントあり～

講師：汐見 稔幸さん（白梅学園大学学長）

参加者：58人

機構図　平成 27 年度　　平成 28 年度



市長からの愛称発表

サンプラザ３号館４階

## 【３】ひきこもり等地域支援ネットワーク会議の取り組み

### １．平成 28 年度の活動状況　［資料 5・6］

ひきこもりやニート、不登校などの相談機関・関係機関のネットワーク構築のため、平成24年6月より枚方市内で活動している各関係機関に呼びかけて、枚方市ひきこもり等地域支援ネットワーク会議（以下、ネットワーク会議という）を開催しています。

平成28年度は、偶数月に全体会議を奇数月に世話人会議を開催しました。世話人会議で次回の全体会議のテーマやネットワーク会議の方向性を検討しました。全体会議のテーマは、年間で医療、教育、労働（雇用）など、まんべんなく取り上げるよう工夫しました。

また、平成27年度までは、市内４つの家族会とそれぞれ意見交換を実施していましたが、平成28年度はそれらの連絡組織として「枚方市ひきこもり家族会連絡会」が結成されましたので、連絡会の代表者に全体会議に毎回出席してもらうことになりました。そこで２月の全体会議は連絡会の構成家族会や当事者会の皆さんをパネラーに、「ひきこもり家族会と行政の連携について考えるシンポジウム」を実施し、広く参加者も募りました。

その他、今年度は新たにひきこもりの若者の就労支援にご尽力されている民間事業所も参加いただけることになりました。当事者の社会参加や就労支援など、いわゆる「出口」の開拓は重要なテーマで、今後活発な情報交換が出来ればと考えています。

また、個人情報に十分配慮した上で、参加機関から提供された事例をもとに、支援について学び合うことを目的とした事例検討会（ケースカンファレンス）を実施しました。

| 実施日 | 会　議　名 | 内　　容 |
|---|---|---|
| 4 月 21 日 | 第 1 回全体会議 | ①各機関からの自己紹介<br>②ネットワーク会議の今年活動予定についての検討 |
| 5 月 26 日 | 第 1 回世話人会議 | ①次回全体会の内容検討<br>②本年度の年間計画検討 |
| 5 月 26 日 | ケースカンファレンス | 事例提供機関：ひきこもり等子ども・若者相談支援センター<br>社会福祉協議会コミュニティソーシャルワーカー |
| 6 月 16 日 | 第 2 回全体会議 | 枚方市における地域での子ども・若者施策について<br>報告：枚方公園青少年C、枚方市青少年育成指導員連絡協議会<br>枚方市子ども青少年課、ちいさなほいくえんみんなの里 |
| 7 月 21 日 | 第 2 回世話人会議 | 次回全体会の内容検討 |
| 8 月 25 日 | 第 3 回全体会議 | 地域との連携による若者の就労支援について<br>報告：京阪毎日新聞舎、NPO 法人ホースフレンズ事務局<br>見学：宮之阪商店街「宮のサポ」 |
| 9 月 15 日 | 第 3 回世話人会議 | 次回全体会の内容検討 |
| 10 月 15 日 | 第 4 回全体会議 | ①子どもの居場所づくり（子ども食堂）の取り組みについて<br>②地域の医療機関におけるひきこもり等の若者支援について<br>講師：フェルマータメンタルクリニック　小林將元 |
| 11 月 17 日 | 第 4 回世話人会議 | 次回全体会の内容検討 |
| 11 月 17 日 | ケースカンファレンス | 事例提供機関：ひきこもり等子ども・若者相談支援センター<br>生活困窮者自立相談支援センター |
| 12 月 15 日 | 第 5 回全体会議 | 高等学校・高等専修学校における若者の現状と進路支援について<br>報告：ECC 学園高等学校、近畿情報高等専修学校 |
| 1 月 19 日 | 第 5 回世話人会議 | 次回全体会の内容検討 |
| 2 月 19 日 | 第 6 回全体会議 | ひきこもり家族会と行政の連携について考えるシンポジウム<br>シンポジスト：家族会 4 団体、当事者会 1 団体 |
| 3 月 16 日 | 第 6 回世話人会議 | 次回全体会の内容検討、来年度の計画。 |

| | | |
|---|---|---|
| | | 地域協議会について |

## ２.平成28年度 ネットワーク会議参加（案内）機関

枚方公共職業安定所（ハローワーク枚方）
大阪府中央子ども家庭センター
大阪府精神医療センター
枚方市民生委員児童委員協議会
枚方市社会福祉協議会
NPO法人枚方市人権まちづくり協会
枚方市地域就労支援センター
枚方市いきいきネット相談支援センター（社会福祉協議会・人権まちづくり協会）
枚方若者サポートステーション（NPO法人ホースフレンズ事務局）
北大阪若者サポートステーション（NPO法人フェルマータ）
大阪府若者サポートステーション（NPO法人スマイルスタイル）
OSAKAしごとフィールド
枚方市障害者自立支援協議会幹事会（NPO法人ﾊﾟｰｿﾅﾙｻﾎﾟｰﾄひらかた・社会福祉協議会）
枚方市障害者就業･生活支援センター（社会福祉法人であい共生舎）
特定非営利活動法人ひらかた市民活動支援センター
長尾谷高等学校
ECC学園高等学校
大阪府立寝屋川高等学校（定時制の課程）
大阪府立大手前高等学校（定時制の課程）
近畿情報高等専修学校
京阪毎日舎
枚方市ひきこもり家族会連絡会
枚方市教育委員会 児童生徒支援室
枚方市 地域振興部 商工振興課
枚方市 福祉部 障害福祉室
枚方市 福祉部 生活福祉室
枚方市 健康部 枚方市保健所 保健予防課
枚方市 健康部 保健センター
枚方公園青少年センター
枚方市 子ども青少年部 子ども総合相談センター「となとな」（事務局）

以上30機関

## ３.全体会の会議録

| | | |
|---|---|---|
| 会議の名称 | 平成 28 年度　枚方市ひきこもり等地域支援ネットワーク会議<br>＜第 1 回　全体会＞ | |
| 開催日時 | 平成 28 年 4 月 21 日（木）　　14 時 00 分から 16 時 00 分まで | |
| 開催場所 | メセナひらかた会館　特別会議室 | |
| 出席者 | 枚方公共職業安定所：1 人<br>大阪府中央子ども家庭センター：1 人<br>大阪府立精神医療センター：1 人<br>枚方市社会福祉協議会：1 人<br>枚方市民生委員児童委員協議会：1 人<br>枚方市地域就労支援センター：1 人<br>枚方市いきいきネット相談支援Ｃ：1 人<br>枚方若者サポートステーション：2 人<br>枚方市障害者就業・生活支援Ｃ：1 人<br>ひらかた市民活動支援センター：1 人 | 若者支援全国協同連絡会：1 人<br>寝屋川高校：2 人<br>長尾谷高校：1 人<br>ECC 学園高等学校：1 人<br>児童生徒支援室：1 人<br>枚方保健所：2 人<br>障害福祉室：1 人<br>子ども総合相談センター<br>家庭児童相談担当：1 人<br>子ども・若者・ひとり親相談担当：5 人<br>計：26 人 |

＜案件１　子ども総合相談センターの体制について＞
(子ども総合相談センター)機構改革に伴う体制の変更についての説明。

＜案件 2　各機関からの自己紹介＞
(若者支援全国共同連絡会議)当事者の視点から作成中の近畿地方の支援機関マップが 5 月に完成予定。今年中に、100 件を目処に近畿の支援機関を調査予定。

(地域就労支援センター)地域に根ざした就労に力を入れている。6 月にパソコン講習、9 月に介護職講習を予定している。

(ECC 学園高校)長期不登校の生徒も受け入れている。卒業後に頑張る力を見につけさせることを重視している。

(枚方市いきいきネット相談支援センター)どこに相談していいか分からないようなときに使ってもらえたらと思う。校区福祉委員会として、子育てサロンや高齢者サロンにも関わっている。

(大阪府中央子ども家庭センター)今年度より、育成支援課と相談対応課に分かれている。中央子ども家庭センターでは北河内の相談を受けている。分室には非常勤の相談員が在中。青少年相談として、概ね 25 歳までの相談を受けている。

(枚方若者サポートステーション)これまでに引き続き、サポステ事業を実施。件数の増加に伴い、家族の相談については、回数を 3 回までとさせていただいている。

(寝屋川高校)定時制では、不登校・発達障害・精神疾患を持つ生徒が在籍している。子育て能力の低い家庭への親支援が課題となっている。本年度より、大阪府の高校生活支援事業にて、中退防止コーディネーターが定時制高校に配置されることになった。

(精神医療センター)不登校の生徒を対象にしたひまわり合宿について。現在、3 クール実施し、4 クール目を募集している段階。

(保健所)家族の会に参加される方は高齢の方が多い。参加される場合には一度、相談をお受けしている。こころの体温計についての紹介。

※その他機関は資料参照。

各機関より他機関への質疑応答
(障害福祉室)障害を持つ子どもの家族より、小学校に進級時に、特別支援学校に行くべきかどうかの問い合わせがあるが、その際に教育委員会に繋いでいるが、構わないか？
(児童生徒支援室)話は聞いてもらえると思うが、窓口について詳細は後日回答する。

(枚方若者サポートステーション)若者の就労支援においては、まず毎日出かけられる場所があるということがひきこもりから次のステップにいくのに大切だと思うが、そういった支援はないだろうか。気軽に行けるようなところ。
(子ども総合相談センター)我々も必要としているが、今はそういった場所はないというのが現状。
(枚方若者サポートステーション)保健所ではどうだろうか。
(保健所)仮に保健所が実施していくことを考えた場合は、医療を必要としている方を対象にすることになると思う。グループワーク的なものになるように思う。

＜案件 3　ネットワーク会議の今年度の活動予定＞
（子ども総合相談センター)ケースカンファを本年度は 2 回予定している。初回は 5 月 26 日に実施予定。本年度はネットワーク会議の参加者を対象にした研修会を実施してもよいと考えている。
地域協議会の設置については、内閣府の設置促進事業に関しては、本年度は該当しないことになったが、協議会は作る方向で予定している。その際には、ひきこもりに限らず、青少年健全育成など、もう少し幅広く対応する協議会として考えていく必要があると思われる。

＜次回会議＞
・平成 28 年 6 月 16 日（木）14 時より開催予定。

以上

| | | |
|---|---|---|
| 会議の名称 | 平成 28 年度　枚方市ひきこもり等地域支援ネットワーク会議<br>＜第 2 回　全体会＞ | |
| 開 催 日 時 | 平成 28 年 6 月 16 日（木）　　14 時 00 分から 16 時 00 分まで | |
| 開 催 場 所 | メセナひらかた会館　特別会議室 | |
| 出　席　者 | 枚方市青少年育成指導員連絡協議会：1 人<br>ちいさいほいくえん みんなの里：3 人<br>枚方公共職業安定所：1 人<br>大阪府中央子ども家庭センター：1 人<br>大阪府立精神医療センター：1 人<br>枚方市社会福祉協議会：1 人<br>枚方市民生委員児童委員協議会：1 人<br>枚方市地域就労支援センター：1 人<br>枚方市いきいきネット相談支援Ｃ：1 人<br>枚方若者サポートステーション：2 人<br>枚方市障害者就業・生活支援Ｃ：1 人 | 枚方市ひきこもり家族会連絡会:1 人<br>寝屋川高校：1 人<br>児童生徒支援室：1 人<br>枚方保健所：1 人<br>障害福祉室：1 人<br>保健センター：1 人<br>子ども青少年課：1 人<br>枚方公園青少年センター：2 人<br>子ども総合相談センター<br>子ども・若者・ひとり親相談担当：3 人<br>計：26 人 |

＜案件１　枚方市における地域での子ども・若者支援について＞

○枚方市青少年育成指導員の活動について　【青少年育成指導員連絡協議会　会長】

コミュニティの説明・役割、青少年育成指導員連絡協議会の活動について報告していただく。

(家族会連絡会)：指導員の選出についてはどのように実施しているか?

(青少年育成指導員)：地域によって、異なる。各校区の指導員の人数は、児童生徒数ではなく世帯数から決めている。

(枚方サポステ)：指導員の年齢層?

(青少年育成指導員)：現役世代も多い。そのため、会議は夜に実施している。

○枚方公園青少年センターの事業について　【枚方公園青少年センター　所長】

青少年センターの概要・事業について、青少年相談についての説明をしていただたく。

(家族会連絡会)：知名度の課題については、生涯学習市民センターとの連携も検討してはどうか?

(枚方サポステ)：利用者はどのような経緯で利用につながっているのか?

(青少年センター)：特定の人からの口コミで広がっているよう。多くの人に知ってもらい利用してもらうために、若者にとって魅力的な事業を行うなど工夫していく必要があると思う。

(子ども総合相談センター)：利用の際の団体登録について?

(青少年センター)：初回の団体登録は窓口にて申請してもらう。それ以降は、インターネットからも予約可能。22 歳以下の青少年の利用であれば、施設使用料も無料なので、ぜひ活用してもらいたい。

○子どもの居場所づくりの取り組みについて　【子ども青少年課　課長代理】

子どもの居場所づくりの事業計画について説明していただく。

(家族会連絡会)募集する団体数?どんな団体を想定しているのか?

(子ども青少年課)5団体募集する予定で考えている。NPOや地域の団体などを考えている。

○「こども食堂」の取り組みについて　【ちいさいほいくえん　みんなの里より】
こども食堂の取り組みについての報告していただく。
(みんなの里)
昨年より、認可外保育園でスタートさせた。ボランティアスタッフの協力を得ながら実施している。みん里以外でも、デイサービスやパン屋の場所を利用させていただき、子ども食堂を実施している。
地域のことは地域で考えていることが大切だと感じる。地域の人に協力してもらえているのは、商店街など地域の人も、交流して、顔見知りの関係になりたいという要望あるから。活動を通して、働いている母と保育園等を利用せずに自宅で子育てしている母との接点が生まれた。
活動に対する遠方からも寄贈が増えている。直接感謝を伝えること難しいが、参加している人同士のつながりを感じてもらえるように、News Letter を作成し、送付している。封入作業等は、子どもたちも手伝ってくれている。
子ども食堂はどんなことがあっても毎週金曜日には必ず実施する。金曜日には必ず、みん里の子ども食堂があるということをお守りにして欲しい。食事ということは、子どもも親も誘いやすいし、来やすい。困っている、寂しい思いをしている子どもや保護者と関わることが出来たらと思っている。

(みんなの里ボランティアスタッフ)
学童で見てもらえる学年を過ぎた子どもたちが夜の時間にうろうろしているのが気になっていた。そういった子に少しずつ声をかけて、参加してもらうようになった。わが子とともに活動に参加している。
自分自身も楽しんでやっている。活動を通して、地域での顔見知りが増えた。子どもたちにも地域の人からよく声をかけてもらえる。顔見知るが増えると、地域に見守られている安心感がある。
不登校の経験あり、自分が子どもの頃にも、みん里のような学校でも家でもない場所があって欲しかったなと感じている。

(地域就労支援センター)非常に大切な取り組みであると思う。市の事業としての支援も活用して欲しいので、そういったことを考えている方、これから始めたいと思っている方に届くように周知して欲しい。
(家族会連絡会)新たに実施を考えている団体が、先行して実施している団体である、みん里に、研修にしにいくなどして、取り組みが広がっていって欲しい。
(みんなの里)これまで動いてなかった人の動くきっかけにもなると思う。新しい人達の力を引き出すきっかけになってくれたらと思う。

＜次回会議＞
・平成28年8月18日（木）14時より開催予定。

以上

| | | |
|---|---|---|
| 会議の名称 | 平成 28 年度　枚方市ひきこもり等地域支援ネットワーク会議<br>＜第 3 回　全体会＞ | |
| 開 催 日 時 | 平成 28 年 8 月 25 日（木）　　15 時 00 分から 17 時 00 分まで | |
| 開 催 場 所 | 市民会館　第 2 集会室 | |
| 出　席　者 | 京阪毎日舎：1 人<br>枚方公共職業安定所：1 人<br>大阪府立精神医療センター：1 人<br>枚方市社会福祉協議会：1 人<br>枚方市民生委員児童委員協議会：1 人<br>枚方市地域就労支援センター：1 人<br>枚方市いきいきネット相談支援Ｃ：1 人<br>枚方若者サポートステーション：2 人<br>枚方市障害者就業・生活支援Ｃ：1 人<br>長尾谷高校：1 人<br>ECC 学園高等学校：1 人 | 枚方市ひきこもり家族会連絡会：1 人<br>児童生徒支援室：1 人<br>枚方保健所：1 人<br>商工振興課：1 人<br>障害福祉室：1 人<br>生活福祉室：1 人<br>保健センター：1 人<br>枚方公園青少年センター：1 人<br>子ども総合相談センター<br>子ども・若者・ひとり親相談担当：3 人<br>計：23 人 |

＜案件１　地域との連携による若者の就労支援について＞

○京阪毎日舎より

新聞社との協力による、居場所支援「ひらぽ」における就労体験について、報告していただく。

就労体験に参加した若者の様子や、若者と関わる際に、心がけていることなどお話いただく。

(子ども総合相談センター)居場所支援にて実施した就労体験は参加者の関心も非常に高く、若者たちも、そういう体験を求めていると感じた。

○NPO ホースフレンズ事務局より

宮之坂商店街と連携して実施している「宮ノサポ」の活動について報告していただく。

宮之阪商店街のコミュニティスペースを起点として、商店街活動に参加することで、地域貢献しながら、社会参加、就労体験、就労マッチングの機会を得ることを目的に実施。

具体的には、商店街の七夕祭りの短冊づくりや、商店街のイベントのチラシ配布。子ども食堂や子ども向けの映画会のサポートなどを実施。また、仕事についての話を聞く講座なども設けている。

上記のような活動を経験しながら、地域でアルバイト等の就労への繋がっていく若者もいることを紹介していただく。

○宮之阪中央商店街「宮ノサポ」の見学

宮ノサポの見学。現地では、来客対応のプログラムの一貫として、若者が今回会議に出席する参加者に対して、コーヒーの提供(販売)を実施。

＜案件２　その他＞

(商工振興課)10 月 28 日実施の三市合同面接会についての情報提供

(家族会連絡会)「社会的」ひきこもり・若者支援近畿交流会主催のシンポジウムの情報提

供
(子ども総合相談センター)子ども・若者支援のための市民連続講座について案内

＜次回会議＞
・平成 28 年 10 月 20 日（木）14 時より開催予定。

以上

| | | |
|---|---|---|
| 会議の名称 | 平成 28 年度　枚方市ひきこもり等地域支援ネットワーク会議<br>＜第４回　全体会＞ | |
| 開催日時 | 平成 28 年 10 月 20 日（木）　　14 時 00 分から 16 時 00 分まで | |
| 開催場所 | メセナひらかた　特別会議室 | |
| 出席者 | 京阪毎日舎：1 人<br>枚方公共職業安定所：1 人<br>大阪府立精神医療センター：1 人<br>枚方市民生委員児童委員協議会：1 人<br>枚方市地域就労支援センター：1 人<br>枚方市いきいきネット相談支援Ｃ：2 人<br>枚方若者サポートステーション：1 人<br>ECC 学園高等学校：1 人 | 枚方市ひきこもり家族会連絡会：1 人<br>児童生徒支援室：1 人<br>枚方保健所：1 人<br>障害福祉室：1 人<br>保健センター：1 人<br>子ども総合相談センター<br>子ども・若者・ひとり親相談担当：5 人<br>計：19 人 |

＜案件１　子どもの居場所づくり（子ども食堂）の取り組みについて＞
〇子ども青少年課より
8 月から補助金を交付する実施団体を募集し、11 団体が決定したことについて、報告していただく。
対象となる子どもたちに、情報が行き届くように今後、工夫を重ねていくということだった。

＜案件２　地域の医療機関におけるひきこもり等の若者支援について＞
〇フェルマータメンタルクリニック　小林將元さんより
・ひきこもりが取り上げられたテレビ番組を題材に、強引なアウトリーチについてお話いただく。単純に批判することは簡単だが、それだけでは問題の解決にはつながらない。
・親はキーパーソンとして外せない存在。支援者は密に連絡を取り、ともに作戦会議を開く中で、親が落ち着いて子どもと関われるように、こちらが落ち着いて親に関わっていく姿勢が大切。親が安定する中で、変わる子どもはいる。
・ひきこもり等の若者支援をしようと思っても、財源がないのが実情。医療の枠組みの中で、居場所が利用できるように、デイケアを就労支援の場とする取り組みをしている。
・入所型や合宿型で行う支援の場合、朝昼晩ときちんと食事を摂ることから始まり、いつも仲間の中にいることができる。「あんなふうになりたい」という目標が身近にいて、やるべきことがあるのは大きい。

＜案件３　その他＞
（子ども総合相談センター）子ども・若者支援のための市民連続講座について案内

今後の予定
第 2 回ケースカンファレンス
平成 28 年 11 月 17 日（木）14 時～16 時より
第 5 回全体会議
平成 28 年 12 月 15 日（木）14 時より開催予定。　　以上

| | | |
|---|---|---|
| 会議の名称 | 平成 28 年度　枚方市ひきこもり等地域支援ネットワーク会議<br>＜第 5 回　全体会＞ | |
| 開催日時 | 平成 28 年 12 月 15 日（木）　14 時 00 分から 16 時 00 分まで | |
| 開催場所 | メセナひらかた　特別会議室 | |
| 出席者 | 京阪毎日舎：1 人<br>枚方公共職業安定所：1 人<br>大阪府立精神医療センター：1 人<br>大阪府中央子ども家庭センター：1 人<br>枚方市障害者就業・生活支援Ｃ：1 人<br>枚方若者サポートステーション：2 人<br>ECC 学園高等学校：1 人<br>近畿情報高等専修学校：1 人<br>寝屋川高校：1 人 | 枚方市ひきこもり家族会連絡会：1 人<br>児童生徒支援室：1 人<br>枚方保健所：2 人<br>生活福祉室：1 人<br>保健センター：1 人<br>子ども総合相談センター<br>家庭児童相談担当：1 人<br>子ども・若者・ひとり親相談担当：4 人<br>計：20 人 |

＜案件１　高等学校・高等専修学校における若者の現状と進路支援について＞

○ECC 学園高等学校より

中卒生の進路として通信制高校に進学する子どもの割合は増加傾向にある。通信制高校には在宅スタイルと通学スタイルの２つのスタイルがあり、在宅生の場合は単位を取得し卒業するための、スクーリングがネックとなることが多い。卒業後の進路が未定の生徒が 10%ほどいる。今後、ソーシャルスキルトレーニングがますます必要となってくること、成功体験を積み自信をつけることの大切さ等を報告していただく。

（家族会連絡会）：通信制高校の選び方がよくわからないという話を聞く。

（ECC 学園高校）：行って現場を見たり、合同相談会を利用するのを勧める。学校によって子どもに合う合わないがある。

○近畿情報高等専修学校より

通信制の長尾谷高校と提携しており、専修学校であるが、高卒資格も取得できる。中学時代に不登校であった生徒、非行に走っていた生徒も極力受け入れをし、入学後は教室に入れなくても登校できれば出席扱いする制度を設けるなどして様々なフォローを行っている。簿記の 3 級の取得ができるようにと思っている。卒業させることを主眼にしているが、長尾谷高校への転編入する子もいる。卒業後に在宅生活となる生徒が 10%程度いる等を報告していただく。

・適応指導教室ルポより、在籍する中学校の担任と保護者、ルポの 3 者で面談を行っていることや、ハローワークで 10 代後半の求職者について、「何をしたら良いかわからない」という人が多い現実について説明いただいた。

今後の予定

第 6 回全体会議

平成 29 年 2 月 16 日（木）14 時より開催予定。

以上

| | | |
|---|---|---|
| 会議の名称 | 平成 28 年度　枚方市ひきこもり等地域支援ネットワーク会議<br>＜第 6 回　全体会＞ | |
| 開催日時 | 平成 29 年 2 月 16 日（木）　　14 時 00 分から 16 時 00 分まで | |
| 開催場所 | サンプラザ生涯学習市民センター　視聴覚室 | |
| 出席者 | 枚方公共職業安定所：1 人<br>大阪府中央子ども家庭センター：1 人<br>大阪府立精神医療センター：1 人<br>京阪毎日舎：1 人<br>枚方若者サポートステーション：2 人<br>大手前高校：1 人<br>枚方市障害者就業・生活支援センター：1 人<br>枚方市地域就労支援センター：1 人<br>児童生徒支援室：1 人<br>枚方市いきいきネット相談支援センター：1 人<br>ひらかた市民活動支援センター：1 人<br>枚方保健所：2 人 | 障害福祉室：1 人<br>保健センター：1 人<br>枚方市ひきこもり家族会連絡会：1 人<br>商工振興課：1 人<br>子ども総合相談センター：4 人<br>NPO 法人つばさの会大阪（1 人）<br>イシス大阪（3 人）<br>カモミール（3 人）<br>登校拒否を克服する会北河内交流会（7 人：上記 1 人を含む）<br>みんなでつくる学校とれぶりんか（1 人：上記 1 人を含む）<br>一般参加：6 人<br>計：41 人 |

＜家族会の現状報告＞

・NPO 法人　つばさの会大阪

家族会はカウンセラーを迎えてサプリ村野で毎月実施。現在 20 家族が登録していて、例会には 15 人程度の参加がある。また、同じくサプリ村野で、毎週月～金の午後 3 時から 5 時半まで居場所事業も行っている。ソフトボールや学習支援などをしていて、簿記の 3 級を目指す人の指導を行い、無事合格した例もある。

・イシス大阪　家族会

枚方公園近くで、居場所事業を 3 年ぐらい前までやっていた。今は、家族会だけをしている。メセナで第 2 日曜日の 1 時半から 4 時まで。医療機関や支援機関にアクセスできていない当事者も来ている。

・不登校の親の会　カモミール

毎年 40 数名が会員登録をしているが、例会に来るのは 10 人程度。残りの半数は、すでに不登校を脱した人、半数はひきこもりが長期化して例会に来ても、特に話すことがないという人たち。4･5 年前から、顔ぶれが変わらない。課題として、新しい人が来ないことがあり、会の内容が停滞気味だったので、この春から例会を月に 2 回から 1 回に変更し、2 ヶ月に一度クッキングセラピーも兼ねたカフェを開くことになった。

・登校拒否を克服する会　北河内交流会

偶数月には、北河内で交流会を実施し、奇数月には大阪で交流会を実施している。15 名程度が参加。花見や忘年会といった行事も盛り込んでおり、さといもニュースという会報も発行している。

・みんなでつくる学校　とれぶりんか
　家族会ではない。子どもと若者の居場所づくりをしている。親子の関係を引き離すところから始め。不登校やひきこもりを社会的な問題と考えている。具体的には、訪問事業や相談事業を行いながら、13 年やってきた。自分に自信がもて、大人を信頼できるようになることを目標にしている。青少年課の委託を受け、毎週土曜日に、いきいき広場でスタッフとして活躍している。また、被災地支援を行うことで、「自分も役に立つ」という実感できる場面に連れて行っている。不登校・ひきこもりを問題行動と捉えるのではなく、充電期間と捉えている。やりながら人は、らせん状に変わっていく。場面を作ることは、リスクも伴うが、周囲がケアしてリスクを薬にし、学校・地域・行政でともに取り組めたらよいなと考えている。

＜当事者や当事者の親からの話を聞く＞
・北河内交流会　Ｅさん
大学 2 年の夏休みから行かなくなる。その後は、なんとか休学を経て卒業した。去年の 11 月から市の相談支援センターに、自分から行くと言ってくれて、本当に嬉しかった。

・カモミールＫさん
高校 3 年生のときに、子どもが卒業できないと不安になり、「お母さんひとりで悩まないで」という連続講座に参加した。会に参加することで、自分のことを安心して話せ嬉しかった。自分の気持ちが楽になった。子どもは高校を中退してしばらくひきこもったが、大検を受けると言い、専門学校を 10 年ぐらいかけて卒業した。親の会は、先生から元気をもらったり、臨床心理士からほめてもらえ。親がほっこりできる。

・イシス大阪　当事者の方
現在 36 歳。14 歳から登校拒否になり 16 歳からひきこもり、18 歳から精神疾患となる。通信で高校を卒業。他人とコミュニケーションを取るのが大変。地元の保健所の家族会で話したり、情報提供をしたりしている。

・とれぶりんか　Ｎさん
参加している人の中には、中学校から登校できなくなり、統合失調症を発症し、一時期荒れた生活をしていたが、今はヘルパーの仕事をしている。自分のやることで喜んでくれる人がいるのが、支え。

・つばさの会
去年の実績として、大学受験を目指し、合格した人がいる。対人関係が苦手な人が多いが、ソフトボールや卓球等汗を流すことで、対人関係も上手になっていくと感じる。

＜各団体からの要望＞
・つばさの会
家から外にでるための居場所。就労支援のための作業所を設置してほしい。広く音楽が流れていてコーヒーを飲みながら無料で提供できるような場所。

・イシス大阪
役所に対しての要望はない。むしろいろいろやってもらっていると思っている。連続講座にも参加した。何をどうれば良いかの参考になった。最近では発達障害についての回が良かった。具体的な示唆を与えてもらった。情報を発信してもらうことがありがたい。啓発活動というか、世の中の雰囲気作りをしてほしい。

・カモミール
親の会の立場を格上げしてほしい。存在を知らない人が多い。1 対 1 の相談ではなく、ピアサポートも行ってほしい。居場所を公設で作ってほしい。就労支援などではなく、生きているだけで OK の豊中社協がやっているようなもの。

・北河内交流会
津田支所などに、月に 1 回とか出張相談会もしてほしい。

・とれぶりんか
アウトリーチをしてほしい。ボランティアを同士がスキルを高めていけるような養成する場所を作ってほしい。

＜質疑応答＞
サポステＳさん
「なかなか就活と言われても動けないので、居場所が必要と思っている。居場所の例を教えてほしい。
Ｈさん
「近畿のサポートマップ作りをしているチームがある。調査をやることが居場所になる。居場所というのは箱ではなく、取り組みやたまり場的なもの」
Ｎさん
「行政は縦割りにならざるをえないところもあるが、横串をさしてほしい。居場所はたくさんほしい。

＜その他＞
・家族会の意義を知らしめてほしい。運営費が大変。
・親亡き意後のライフプランをどう考えるか。ライフプランの支援についても考えてほしい。

＜子ども総合相談センター課長より＞
　当ｃの紹介。官民問わずたくさんのチャンネルがあった方が良い。市がまとめて引き受けるのではなく、連携を取りながら進めていくのが良いと思う。枚方市では 5 年前に子ども若者支援計画を作ったが、来年度は改訂もしていく。子ども若者地域協議会の立ち上げも検討。
　市の職員も家族会の訪問をしたいと思っている。

　次回は、4 月に開催予定。　　以上

資料

# 資　料

# ひらぽう

［資料 1］

第９報
（平成 28 年４月）

４月より、「枚方市ひきこもり等子ども・若者相談支援センター」は、子ども青少年課から子ども総合相談センターへ所属が変わりました。更にパワーアップして、新年度スタートします！

皆さん、こんにちは。この春から、「ひらぽ」のコーディネーターになった、榎本です。実は、この記事を書いているのは、まだ皆さんにお会いする前なんです…！これから、どんな出会いがあるのかな、とわくわくしています。どうぞよろしくお願いいたします。

さて、初めてということで、少し自己紹介をさせてください。私は、ずっと関西で育ちました。なぜか、関西弁は年々薄れていってしまっているのですが（自分でも不思議…）、味覚は生粋の関西人で、粉もんが大好きです。趣味はピアノで、お休みの日はよく弾いています。

また、3 年前から、ちょっとしたご縁で、手話を勉強し始めました。手話の表現って、「なるほど！」と思うことが多くて、面白いんです。たとえば、数字の「2」と「4」を両手で作って円を描くと、「コンビニ」という意味になります。理由は、24 時間営業しているから。どうですか？「なるほど！」って思いませんか？

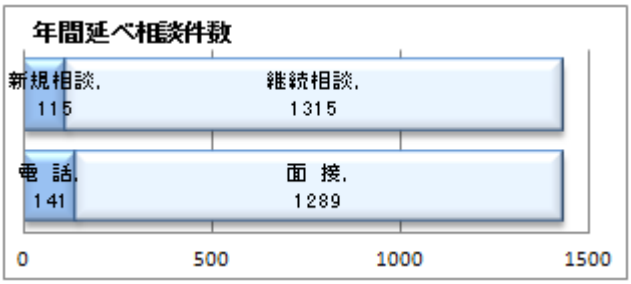
「（また）お会いしましょうね！」

他にも、色々な単語の表現があって、ほんとにちょっとずつですが、使える単語を増やしているところだったりします。まだまだ初心者の私は、地域の手話の団体で、色んな方とお話をしています。仕事の都合で、活動になかなか参加できないですが、たまにふらっと寄って過ごす時間が、自分にとって楽しく居心地の良いひと時となっています。

「ひらぽ」も、皆さんが、心地の良い時間を過ごせる場所になれば良いなと思っています。一人一人にとって、より良い居場所を一緒に作っていきたいなと感じています。皆さんと色んな活動を通じて、交流できることを楽しみにしておりますので、これからよろしくお願いいたします。

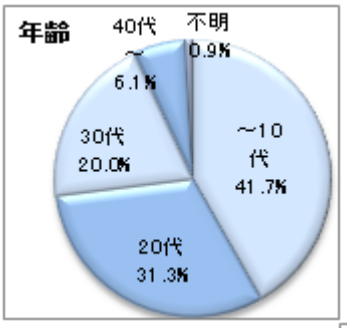
## ✎平成 27 年度の相談状況のご報告✎

まずはじっくりお話をお聴かせください。

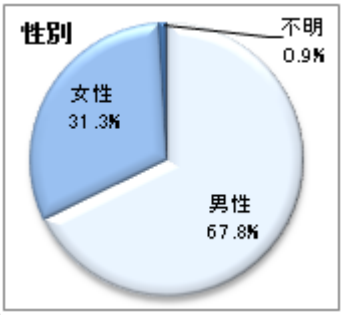



←新規相談が 115 件、継続相談が 1315 件、合計延べ相談件数は 1430 件でした（内、面接相談 1289 件、電話相談 141 件）。1 回で適した情報提供をさせてもらう場合もありますが、多くは時間をかけながら継続した相談を重ねています。

### ～新規相談（115 件）の内訳～

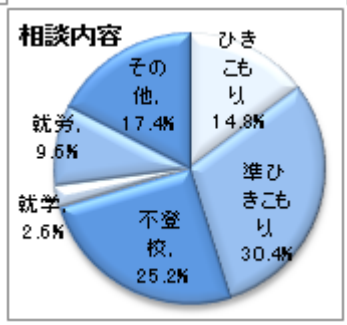



←ご本人の年齢層は、10 代 20 代が多いですが、幅広くご相談をお受けしています。

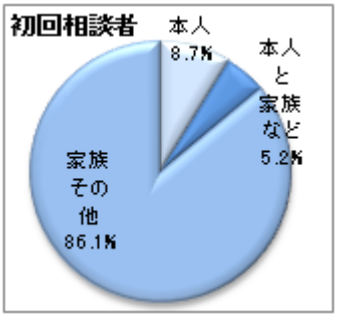



←男性のご相談が 7 割弱。昨年度より、女性の相談の割合が増えました。

→相談内容は様々です。複数の背景を含んでいることも多いです。（グラフは主な内容ひとつの集計です）




→初回の相談者は８割強が、ご家族からの相談です。ご家族との相談を通して、ご本人とつながっていくことを一緒に考えていきます。




## 家族の会の予定

今年度は 1 年を通してテーマを決め、時間の前半は情報提供を、後半は意見交流を行います。市役所の他部署や、外部の講師にもお願いする予定です。

| 日程（予定） | テーマ（予定） |
|---|---|
| 4/15(金) | 子ども総合相談センターより |
| 5/20(金) | ひきこもり等子ども・若者相談支援センターについて |
| 6/10(金) | 若者の就労支援について【枚方若者サポートステーション】 |
| 7/8(金) | 発達障害について【外部講師依頼予定】 |
| 9/9(金) | 精神疾患について【枚方市保健所】 |
| 10/14(金) | 障害福祉について(障害年金、手帳など)【障害福祉室】 |
| 11/18(金) | 福祉的就労について【枚方市障害者就業・生活支援センター】 |
| 12/9(金) | 年金について【年金児童手当課】 |
| 1/13(金) | フリーテーマ |
| 2/10(金) | 生活保護について【生活福祉室】 |
| 3/10(金) | 調理イベント |

※毎月第２金曜日が基本日程です。時間は 14 時～16 時。場所はラポールひらかたです。

ご利用の際はまずご相談から。。。

～発行元・お問い合わせ先～
枚方市ひきこもり等子ども・若者相談支援センター（枚方市子ども青少年部子ども総合相談センター内）
電話：843-2255 ／ FAX：843-2244

# ひらぽう

新たなロゴとともに
“ひらぽ”も３年目のスタートです！！

第 10 報
（平成28年6月）

**相談員の足立です！**

こんにちは！相談員の足立です。

６月のひらぽでは、枚方八景のひとつ、国見山への散策を計画していますが、私も時々、山に登ります。六甲山も好きですが、北アルプスの山々も大きくて優しくて美しすぎて大好きです。

何年か前、雨と風の悪天候の中、山を歩いたことがありました。道中の山小屋の方に、雨で水かさが増して通れない道があるので、別ルートを教えてもらい進むことに。雨で濡れ、風に吹かれると、まぁ、寒いです。歩くと身体はあたたかくなりますが、どうにも強い風にはかないません。2000mを超える山で森や林のような大きな木が生育しない中、現れるのが、ハイマツです。高地に這うように広がる背の低い松なのですが、これがいてくれることで、風が止み、寒さから私を守ってくれます。雨風にうたれながら、息を切らして、ぐずぐずになっていても、ハイマツに囲まれると、ふわっと笑えて、“あぁありがとう”と湧いてくる瞬間です。

引き続き、その別ルートとやらを進んでいくと、地図と実際の道が一致しません！あるはずの目印がないし、ないはずの道がある！途方にくれながら、その先の道を探す中、変わらず雨と風は強く、どんどん体温を奪っていきます。“あぁ、このままこの大きな自然の中に私はうもれて見えなくなってしまうのか？”と、救助のヘリコプターと謝罪の会見の様子が頭をよぎります（おおげさ！）。そんな時、私の中から、“生きてかえるぞ！”という意志が湧いてきたのです。そう思えた自分に、ほっとし、救われた思いでした。はたとして、気持ちを立て直し、その意志でもって、先の道をすすみ、無事に今、枚方にいるというわけです。

まだまだついていくだけの山だったのですが、この時はじめて、“自分で歩く山”を実感することができたように思います。

さて、そんな山をイメージした、ひらぽのロゴが、今回のひらぽうから登場です（これまでもちょこちょこお目見えしていましたが）。私がお会いしている方が、このイメージを形にしてくれました。自分の足で歩いてきたこれまでの道も確かにある。そしてこれからの道も確かに続いている。自分のペースで、いっぽ いっぽ ひらぽ。

ということで、今年もまた登ります。

# ひらぽ活動紹介

## 【cooking】

餃子・スイートポテト・ピザ・うどん・パンケーキ・カキ氷・クッキー　etc…

先日は、こんにゃく粉を使って、手作りこんにゃくに挑戦しました。カラフルなこんにゃくが完成！！刺身こんにゃくで頂きました♪

こんにゃく芋

## 【art】

ステンシルアート・小物づくり・葉脈標本づくり・カプラ・かるたづくり・マンダラ塗り絵　etc…

カプラとは、フランスで生まれた薄くて軽い積み木です。積み方次第で、色んなものが作れます！□△○

ひらぽでは、かまくらを作りました。

## 【sport ・go out】

卓球・ダンス・凧揚げ・刑泥・お花見・もみじ狩り・教会訪問(クリスマス)　etc…

秋には石清水八幡宮に行きました。各々、カメラに紅葉の写真をおさめました。

他にも、カードゲームや映画鑑賞を実施しています！

## ひらぽ６月の予定　*pick up!*

15日　スケッチ

22日　八景クエスト(国見山)
枚方市内の八景をめぐる旅
現在、牧野の桜をクリア！

29日　キャンドル作り

新しいサポートフレンドのみなさんにも
活躍してもらっています☆

ご利用の際はまずご相談から。。。

～発行元・お問い合わせ先～
枚方市ひきこもり等子ども・若者相談支援センター（枚方市子ども青少年部子ども総合相談センター内）
電話：072-843-2255　／　FAX：072-843-2244

# ひらぽう

第１１報
（平成28年８月）

新しく活動に参加してくれている
サポートフレンドさんを紹介します！！

今年度からサポートフレンドとしてお世話になっています萩原です。どうぞよろしくお願いします。ところで、みなさんは何か動物を飼われたりしていますか？

よく、犬派、猫派とか言われますが私はバカがつくほどの大の犬派です。物心がついた頃からずっと犬と家族として暮らしています。もちろん今もロングコートチワワの男の子がいます。この子で通算５匹目になります。現在３歳半ですが、今までで一番やんちゃで毎日が大騒ぎです（笑）。

洗濯物を取り込んだらその上で寝るし、たたみなおしていたら靴下やタオルを私の目を盗んでテーブルの下やソファーの下に隠したり、私の抱き枕は齧られまくってボロボロ・・・。障子や畳や襖など、今の子を迎えてから全部取り替えました。今までの子は障子紙をチョンと破く位で修理用のシールでなんとかなっていましたが、木枠まで齧られてしまったので、仕方なく撤去しなければならない始末です。それでも、親ばか（飼い主ばか？）な私が本気で叱れないのを見抜いているみたいで、「こら！」と言っても真剣には反省してないみたいです。時々、お留守番をしてもらって帰ってくると、何かしら悪さをしたのか呼んでもなかなか出てこないで物陰に隠れて私と視線を合わせようとせず、自己申告してくるところがまた何ともおまぬけで可愛くてまたまた叱れなかったりするんですよね。今は一人暮らしをしているので、この子が唯一の家族です。なのでこの子のことは「ペット」ではなく、「息子」と呼んでいます。この子のおかげで生活のリズムも整えることができ、寂しさを癒してくれたり、この子を通じて友達ができたりと本当に感謝することが多いです。

しかし、世の中には犬や猫などの無責任な飼い方をされている方も多く、閉口してしまうことも多いです。よく見かけるのは、排泄物の放置。お散歩のときでも明らかに処理用の袋など持たずにお散歩をされている方をお見掛けすると大丈夫かなと思ってしまいます。

それと、これは一番悲しいことなのですが、虐待や遺棄。ネットなどでも可愛そうな子たちの投稿がたくさんされています。犬の場合、野犬や迷子で保健所に収容されると飼い主や里親に出会うことができなければ、約１週間、飼い主が持ち込んだ場合は３日間位で殺処分されてしまいます。年間約２万頭もの罪もない尊い命が人間のために消されていきます。かけがえのないこの子たちの命を守るためにいつも何か出来ないものかと SNS などで里親募集を呼びかけたりしています。一度、自分たちの家族になった子たちは、最後まで責任をもって幸せに一緒に暮らしてあげてほしいと節に願う毎日です。

やんちゃ息子です♪

# 家族の会

４月から新しい形で家族の会を始めました。毎月テーマを設けて、色んな分野の方にお話に来ていただいております。４月と５月は当センターから、相談窓口や居場所支援の活動について紹介させていただきました。

■６月：枚方若者サポートステーション■

若者の就労支援についてのお話をしていただきました。自立へのステップや家族の関わり方や心構えについても聞かせていただきました。初参加の方も多く、10 名のご家族にお越しいただきました。

■７月：北摂杉の子会■

神経学的な話を交えて、発達障害の特性の理解や関わり方について教えていただきました。特性を理解して関わるということは障害の有無に限らず、人と関わる上でのヒントになると感じました。９名のご家族に参加していただきました。

次回はファイナンシャルプランナーの方に、お金のことについて、お話していただく予定です。

●日時：平成２８年９月９日（金）　１４時～１６時

●場所：ラポール枚方　特別会議室

今年もひらぽで NPO フェスタに参加します！！

日時：平成２８年９月１１日（日）10 時～１５時

場所：枚方市民会館・岡東中央公園

昨年同様、ラムネの販売を予定しています！！

キャンドルも製作中です。

みなさんお越しを待っています☆

10 月には、相談窓口の移転を予定しています。

～発行元・お問い合わせ先～

枚方市ひきこもり等子ども・若者相談支援センター（枚方市子ども青少年部子ども総合相談センター内）

電話：072-843-2255　／　ＦＡＸ：072-843-2244

# ひらぽう

第 12 報
（平成 28 年 10 月）

10 月からサンプラザに相談窓口が
移転しました！！

## 新しい相談員を紹介します！

９月から、相談員として働かせてもらっている東牧陽子（ひがしまき　ようこ）、52 歳のバツイチシングルです。

自己紹介は、できればちょっと印象に残る文章を書きたいなという野心（？）を持っていて、今日は勇気を振り絞って（←大げさ）、コンプレックスの話をしようと思います。

１歳４ヶ月のときに、ぜんそくと診断されて、そのまますーっとアレルギー体質者として生きてきたのですが、２度の出産を経て、アレルギー体質者であることは、変わらないものの、出現の形がぜんそくから、アトピーに変化してきました。

で、ステロイドという強力な副作用があるお薬を、かゆみに負けて使っていたのですが、どんどんアトピー患者特有の色素沈着が起こってきて、一言で言うと、「顔色が変」なんです。

（　ここまで書いて、やっぱりみんなが読んで楽しくなれる話題に、変更したほうが良いのだろうかと、びびってしまっています。　）

ときどき「私、太っているのがコンプレックスなんです」みたいなことを言う人がいますよね？　そういう人って、多分たいしたコンプレックスではないから口にできるんじゃないかなあ。少なくとも、私は今は、ここでこうして書いているけれど、この話題を口にできたことはありません。辛いというよりかは、怖いという感覚です。子どもとか、怖いです。遠慮なく、ずばっと言いますから。

昔、若い頃は、年齢を重ねると、いろんなことに傷つきにくくなって、人生はもっと生きやすくなるのかと思っていましたが、そんなことはないみたいです。ハロウインの魔女に、「きれいな顔色をあげますが、どうしますか？」と言われたら、迷わずもらいますが、まあ現実には魔法使いはいないので、自分の中の好きではない部分とも、付き合っていくしかないですね。そこがうまくいくと、自分のことも好きになれるかなと思います。

今度私と会ったら、さりげなく「ひらぽう読みましたよ」と言ってやってください。喜びます。

# ひきこもり等子ども･若者相談支援センターが移転しました！！

平成 28 年 10 月 3 日より、ひきこもり等子ども・若者相談支援センターが、市役所別館 5 階から市役所分室のサンプラザ 3 号館 4 階に移転しました。本年度より、子ども青少年課内から新設された子ども総合相談センター内に窓口が変わり、いよいよ 10 月から子ども総合相談センターが統合され、業務が始まりました。

住所：〒573-0032 枚方市岡東町 12-3-410
サンプラザ 3 号館 4 階　子ども総合相談センター内
TEL：072-843-2255　　FAX：072-846-7952
E-Mail: kodomocenter@city.hirakata.osaka.jp
※相談電話番号と E-mail は変更ありません。

子ども総合相談センターでは、ひきこもり・ニート・不登校の相談のほかに、18 歳未満の子どもに関する家庭児童相談やひとり親の家庭の相談にも応じています。子どもや若者に関する相談窓口が一元化されることになりました。

## 子ども・若者支援のための市民連続講座を実施します☆

| 日程 | テーマ(講師) | 場所 |
|---|---|---|
| 11 月 7 日(月)<br>14:00～ | 子ども・若者の自立支援と地域支援<br>ー地域臨床心理学の視点からー<br>(関西大学臨床心理専門職大学院　石田陽彦さん) | ラポールひらかた<br>3 階　研修室 1 |
| 11 月 27 日(日)<br>14:00～ | ひきこもりの若者を取り巻く状況<br>(筑波大学大学院人間総合科学研究科教授　斉藤環さん) | ラポールひらかた<br>4 階　大研修室 |
| 1 月 21 日(土)<br>14:00～ | 若者の就労体験プログラムとキャリア教育<br>ー通信制・定時制高校の生徒たちを支える仕組みへー<br>(認定 NPO 法人 D×P 理事長　今井紀明さん) | ラポールひらかた<br>3 階　研修室 1 |
| 2 月 4 日(土)<br>14:00～ | 生きにくさを抱える発達障害の若者の理解と支援<br>(花園大学社会福祉学部臨床心理学科教授　橋本和明さん) | ラポールひらかた<br>3 階　研修室 1 |

第 1 回・第 2 回の申込を開始しています。詳細は、子ども総合相談センター（050-7102-3228）までお問い合わせ下さい。

～発行元・お問い合わせ先～
枚方市ひきこもり等子ども・若者相談支援センター（枚方市子ども青少年部子ども総合相談センター内）
電話：072-843-2255　／　FAX：072-846-7952

# ひらぽう

第 13 報（平成 28 年 12 月）

子ども総合相談センター「となとな」の津田です。ひきこもり等子ども・若者相談支援センターの最初のときから面接・相談を担当してきました。ただ、今年４月から課長になり、管理職の仕事が多くなり、現在はあまり面接をおこなっていません。少し寂しくもあります。それでも時々は「ひらぽ」などに顔出ししたいと思っているので、その際は、温かく迎え入れてくださいね。

さて、私は、市役所に入って今年で 35 年目。やってきた仕事は、生活保護と障害福祉と高齢者福祉、そして今の若者支援です。ほぼケースワーカーをやっていました。ケースワーカーというのは、相談員ですが、話しを聞いたりアドバイスをするだけではなく、相談者と一緒に動いたりして問題解決のお手伝いをする仕事です。経歴を見れば福祉一筋の人間みたいですが、福祉のことを知ったのは市役所に入ってからでした。

その、市役所に入る前の話です。学生時代の終わり、卒業年度になり、しかし就職活動はろくにせず、教員採用試験を受けたもののあっさりと落ち、このまま留年しようかと迷いながら、つい出来の悪い卒業論文を提出してしまい、４月になれば所属もなく社会に放り出されてしまうのだなあとぼんやり考えていました。哀れんだ先輩が回してくれたアルバイト（下水処理場の仕事で、浮かんでくる“うんこ”をすくったりするもので、結構割りのいいものでした）を時々やりながら、友人の下宿を渡り歩き、酒ばかり飲んでいました。季節は冬で、将来はまったく見えず、心の中にも寒いものを抱えながら、ほぼ思考停止に陥っていました。

そんなある日、知人から連絡があり、枚方市で季節はずれの募集をおこなっているので受けたらどうかとのこと。初めて京阪電車に乗り、もらってきた願書には社会福祉主事の任用資格がある者という条件が付いていました。学校で調べてもらったら該当するとのことなので、応募をして受験をしましたが、試験問題はまったく歯が立たず、落ちたものと決めて日を過ごしていました。ところが３月末に、合格しているので４月から出て来いとの連絡があり、狐につままれたような気分のままで、市役所職員になっていました。多分採用条件のせいで応募者が少なかったおかげでしょう。

そして、配属されたのが生活保護のケースワーカーでした。担当世帯を訪問し自立への支援をおこなうというもの。当然１日で完了する仕事ではなく、仕事が終わっても気分的に引きずり、そのことが結構ストレスで、住民票交付のような仕事がうらやましくて仕方ありませんでした。毎日辞めたいと思いながら過ごしていました。

ところが、気が付けば福祉のケースワーカーばかりで 35 年。特別なきっかけがあったわけではなく、続けることによって面白みが分かってきたということなのでしょう。慣れてしまったのと少しだけ自信がついたのもあるかもしれません。辞めなかったのは、家族を持ってしまったこともあると思います。どこに適性があるのか、適職に巡り合えるのかなんて分からず、人生なんて、ほぼ偶然で成り立っているものなのだなあという感想と、我慢してでも続けると見えてくるものがあるかもしれませんよという教訓的なお話でした。

大丈夫、大丈夫

# 子ども総合相談センターの愛称が

# となとな

# に決まりました！！

子どもや若者に関する総合相談窓口「子ども総合相談センター」が、より親しみやすい窓口になるようにと募集した愛称が決定しました。市民から寄せられた 52 件の応募の中から、“いつでも「となり」にいますよ”という思いが込められた『となとな』になりました。

ひきこもり等子ども・若者相談支援センターと居場所支援『ひらぽ』とともに、引き続きよろしくお願いいたします！

子ども総合相談センターでは、
おおむね 15 歳から 39 歳までの、ひきこもり・ニート・不登校の相談と、18 歳未満の子どもに関する家庭児童相談、ひとり親の家庭の相談など、子どもや若者に関する相談の窓口があります。

## 12 月のひらぽ *pick up!*

6 回の開催の中からおススメをご紹介！

7日　英語レッスン！
海外生活経験のあるサポートフレンドさんを講師に、異文化を感じてみよう☆

19 日　ラーメン作り！！
毎年恒例の年越しイベント、今年は手作りラーメンです。
昨年のうどん作りをステップに、麺はもちろん、スープもつくりますよ。ただいま豚骨を仕入れ中。
今月のメインイベント！力はいっています！

ラーメンの油をまとめる人のイラスト

ラーメンの汁の上に浮いた油を箸で動かして、大きな油にして遊んでいる人のイラストです。

28 日　卓球！
ひそかな人気を集める卓球です。メンバーみんな、熱く燃えています。

～発行元・お問い合わせ先～
枚方市ひきこもり等子ども・若者相談支援センター（枚方市子ども青少年部子ども総合相談センター内）
問い合わせ電話：050-7102-3228 ／ 相談電話：072-843-2255 ／ ＦＡＸ：072-846-7952

# ひらぽう

☆ 生きづらさを抱える若者たちと
ともに生きる

第14報
（平成29年2月）

34年前に、中学校の教諭として枚方にやってきました。

中学校のクラスには、いろんな子どもたちがいます。障害を持った子ども、在日に生きる子ども、中国やブラジル、ペルーなどからやってきた子ども、学校の内外で荒れる子ども、学校に来れない子ども…、家庭環境が壊れてしまっている子ども……。本当にさまざまです。

どの子の問題が一番だとは決められません。

どの子も大切にされる場でなければなりません。

未熟な自分が、クラスの中の唯一の大人として七転八倒。

あたふた、ばたばたしながら…結局は、子どもたちの有り様に学びながら、彼らの想いに助けられながら…泣き笑いの18年間の教師生活を送ることができました。

しかし、20 数年前から、卒業後、うつ状態になってリストカットしたり、病気を発病したり、自殺未遂したり etc、苦しい状況に喘ぐ子どもたち、若者たちが増えてきました。

生活指導の忙しさに、彼らや彼らの友人の相談に応えきれなくなってゆきました。そんな中で、一人の若者が自ら命を断ちました。

大変な衝撃を受けました。私たちの実践は、所詮、学級王国の枠の中のドラマに過ぎなかったのでしょうか。

学校と家庭と地域をしっかりとつなぐセーフティネットの必要を痛感しました。

一人よがりな実践だったのだと、情けない気持ちでいっぱいになりました。

これが、「みんなでつくる学校とれぶりんか」というフリースクールをつくる契機となりました。現職のままでは到底無理だと退職し、非常勤となって時間をつくりました。

年2回のボーナスが失くなり、収入が激減するわけで、嫁さんにどう言ったものかと、少し悩みました。

相談したものの、「もう決めてるんやろ！」のひと言。その通りでした。嫁さんには、とても感謝しています。退職金もかなり使っちゃいました。

生きづらさを抱え、人生に戸惑う若者の居場所は、多少なりともつくれてきたかなとは思っています。

しかし、未だに答えのでない事だらけで、未だに迷走を続けています。

子どもたちの笑顔の下に、もうひとつの素顔があります。

社会として向き合わねばならない孤独、痛み、哀しみ、絶望があります。あっけらかんと哀しく切ない想いに出くわします。

さて、私たちに何ができるというのでしょう!?

この続きが、いよいよスゴイのですが、またの機会にお話したいと思います。

このコラム、職員の津田さん、東牧さんと自らはじけてくれてスゴすぎる空間となっております。少しは引き継げたのか不安です。

大切に、大切にしていきたいコラムです。

みんなでつくる学校とれぶりんか
伊川祐二

# ―ひとりひとりが自分らしく―
# 子ども・若者支援のための市民連続講座を開催しました！

ひきこもり等の子ども・若者の現状と自立にむけた取り組みについて、市民の皆様により知っていただく機会として、また今年度は、子ども総合相談センター設置記念講演として、連続講座を開催しました。多くの皆様にご参加いただき、とてもよい時間となりました。

☆第１回：11 月７日☆

**子ども・若者の自立と地域支援**

**-地域臨床心理学の視点から-**

奈良県での若者支援の実践を通して、民間と行政を巻き込み、地域で切れ目のない支援を行う取り組みについて、石田陽彦さん(関西大学教授)より講演をいただきました。

実際の関わりの中では、‘けんかをしてもいい、しっぱなしでなくフォローしたらいい。そしたら元よりよくなる’‘親子の関係も、機関同士の関係も関わり続けること、孤立させないこと’という言葉が印象的でした。

☆第２回：11 月 27 日☆

**ひきこもりの若者を取り巻く状況**

ひきこもり等の若者支援の第一人者である、斎藤環さん(筑波大学教授)より、ひきこもり等の若者の理解と対応について、根拠に基づいた明快な説明でご講演をいただきました。

コミュニケーションの回復のための、「会話・対話」が重要であること、本人理解や社会の認識などについて、その本質を教えていただきました。

☆第３回：１月 21 日☆

**若者の就労体験プログラムとキャリア教育**

**-通信制・定時制高校の生徒たちを支える仕組みへ-**

通信制・定時制高校に通う生徒たちへの支援を行っておられる、今井紀明さん(認定 NPO 法人 D×P 理事長)より講演をいただきました。

実際の活動とその理念、実践に基づいた現代の若者の姿を紹介していただきました。10 代の若者が自分の未来に希望が持てるようにする、そんな熱い思いが伝わるお話でした。

☆第４回：２月４日☆

**生きにくさを抱える発達障害の若者の理解と支援**

思春期・青年期に焦点をあてた、発達障害の理解と、その若者へ関わる姿勢について、橋本和明さん(花園大学教授)より講演をいただきました。

大人の視点で捉えるのではなく、その若者たちがどこを見ているのかを理解すること、関わる側のコミュニケーション力をみがくこと、生活の中にココロ＝情を流すことなど、多くの印象的な言葉がありました。ひとりひとりが違って当たり前という‘異質性’を尊重するとともに、自分にも共通する‘類似性’を認識し、自身にぐっとひきつけて理解するという視点を教えていただきました。

～発行元・お問い合わせ先～

枚方市ひきこもり等子ども・若者相談支援センター（枚方市子ども総合相談センター となとな 内）

電話：050-7102-3228 ／ 相談専用電話：072-843-2255 ／ ＦＡＸ：072-846-7952

子ども総合相談センター設置記念講演　　[資料2]

# ーひとりひとりが自分らしくー
# 子ども・若者支援のための市民連続講座

枚方市では、「ひきこもり等子ども・若者相談支援センター」にて、ひきこもり等のご本人・ご家族からの相談をお受けしています。また、今年度より、子どもやその家族の相談に総合的に対応するため、相談窓口を一元化した、子ども総合相談センターを設置しました。

ひきこもり等の子ども・若者の現状と自立に向けた取り組みについて、市民の皆様により知っていただく機会として、また、子ども総合相談センター設置記念講演として連続講座を開催します。

多くの皆様のご参加をお待ちしております。

第１回　**11** 月 **7** 日（月）14:00～　場所：ラポールひらかた 3F 研修室１

## 子ども・若者の自立と地域支援ー地域臨床心理学の視点からー

石田　陽彦 さん（関西大学臨床心理専門職大学院教授）

第２回　**11** 月 **27** 日（日）14:00～　場所：ラポールひらかた 4F 大研修室

## ひきこもりの若者を取り巻く状況

斎藤　環さん（筑波大学大学院人間総合科学研究科教授）

第３回　**1** 月 **21** 日（土）14:00～　場所：ラポールひらかた 3F 研修室１

## 若者の就労体験プログラムとキャリア教育

### ー通信制・定時制高校の生徒たちを支える仕組みへー

今井　紀明さん（認定ＮＰＯ法人Ｄ×Ｐ理事長）

第４回　**2** 月 **4** 日（土）14:00～　場所：ラポールひらかた 3F 研修室１

## 生きにくさを抱える発達障害の若者の理解と支援

橋本　和明さん（花園大学社会福祉学部臨床心理学科教授）

【定員】第１・３・４回は **50** 人　／　第２回は **100** 人　【時間】２時間

【申し込み】

☆第１回・第２回は、10 月 5 日(水)10:00～

☆第３回・第４回は、12 月 5 日(月)10:00～

いずれも市役所分室（サンプラザ３号館）４階、子ども総合相談センターへ。

電話・電子メール・ファックス可。住所・氏名・電話番号・参加希望日を明記のこと。

枚方市 子ども青少年部 子ども総合相談センター（ひきこもり等子ども・若者相談支援センター）
枚方市岡東町 12－3－410 サンプラザ３号館４階
TEL: 050-7102-3228(10 月より)　FAX: 072-846-7952　E-Mail: kodomocenter@city.hirakata.osaka.jp

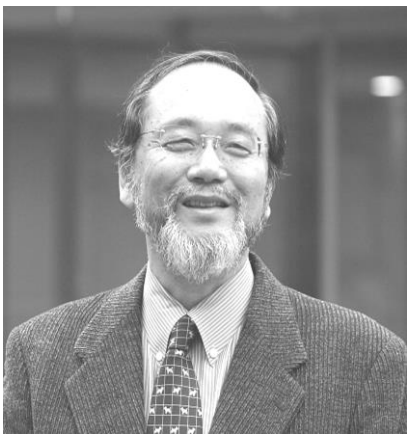
[資料 3]

# 子ども総合相談センターオープニングイベント

# 記念講演会

## いくつになっても迷ったり悩んだり
## ～『子どもって願ったようには育たない』ことにヒントあり～

子育ては何度でもやり直しができる！変わるチャンスがある！
そこには子どもが出すサインにヒントがある！
今回のお話をきっかけに何か新しい気づきがあるかもしれません♪



**講師**

**汐見　稔幸（しおみ　としゆき）先生**

**白梅学園大学学長・東京大学名誉教授。**
**専門は教育学、教育人間学。育児や保育を重要な柱として＜子育てにとても大切な２７のヒント～クレヨンしんちゃん親子学～＞や＜この『言葉がけ』が子どもを伸ばす＞など多数の著書を出版されています。**

**●日時：平成２８年１２月２日（金）１０：００～１２：００**

**●場所：メセナひらかた会館　６階　大会議室**

**●参加費：無料**
**●申し込み：平成２８年１０月５日（水）１０：００から電話またはファックスで受付。住所・氏名・電話番号・講座名を明記して同センターへ。抽選で１３５名。１０月３１日（月）必着。抽選後、結果発送します。**
**●保育：１歳～就学前児。抽選で１０人程度。申し込み時に保育の抽選に外れた場合の出欠について、必ず明記のこと。**

**問い合わせ・申し込み：子ども総合相談センター**
**電話　０５０－７１０２－３２２１**
**ファックス　０７２－８４６－７９５２**
**※手話通訳が必要な方はお申し出ください。**

# 枚方市 子ども総合相談センター

# となとな




## 枚方市子ども青少年部

## 子ども総合相談センター

〒573-0032　枚方市岡東町12番3-410号　サンプラザ3号館 4階
FAX 072-846-7952　E-mail:kodomocenter@city.hirakata.osaka.jp

[資料4]

# 子ども総合相談センター

枚方市には子どもや若者のみなさんの相談をお聴きする場所がたくさんあります。
一緒に考えてみませんか？
まずはご連絡ください。何かお手伝いできることがあるかもしれません…。

## 家庭児童相談

親子関係、子育て、友達のことなど、
18歳未満のお子さんについての様々な相談にのります。

電話：050-7102-3221

## ひきこもり等子ども・若者相談支援センター

15歳からおおむね39歳までの方の、ひきこもりや不登校、
就労についての相談をお受けします。

電話：072-843-2255

## ひとり親相談

ひとり親のみなさんや、これからひとり親になるかも
しれない方の、自立のための相談をお受けします。

電話：050-7102-3227

枚方市 ひこぼしくん

### 子ども総合相談センター

月～金曜日（祝日を除く）
9:00～17:30

相談は無料。秘密は厳守します。
安心してご相談ください。

平成28年度第6回　枚方市ひきこもり等地域支援ネットワーク会議

# ひきこもり家族会と行政の連携について考えるシンポジウム

[資料5]

　枚方市では、平成24年6月にひきこもり支援の仕組みづくりを官民協同で行う「枚方市ひきこもり等地域支援ネットワーク会議」が発足、平成25年6月より「枚方市ひきこもり等子ども若者相談支援センター」（現枚方市子ども総合相談センター・ひきこもり等子ども若者相談支援センター）がスタート、居場所「ひらぽ」も開設されました。

　「枚方市ひきこもり等地域支援ネットワーク会議」では2か月に1回全体会を開催していますが、当初から2月は家族や当事者との交流を行ってきました。今回は、これまでの交流に加えて今後の枚方におけるひきこもり支援を実りあるものとするために、「ひきこもり家族会と行政の連携について考えるシンポジウム」を開催します。

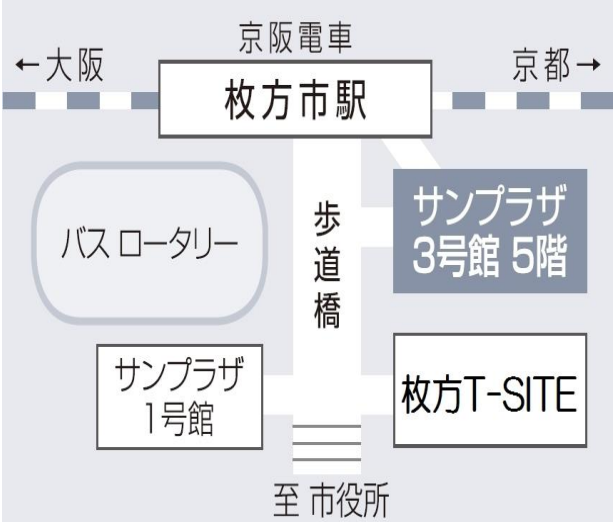
　たくさんの方のご参加をお待ちしています。

日時：**2017年2月16日（木）14時～16時**

場所：サンプラザ生涯学習市民センター・視聴覚室
（京阪枚方市駅東改札口すぐ、ひらかたサンプラザ3号館5階）

内容：①家族会各団体からの報告
　　②家族や当事者から行政への要望
　　③意見交流

参加団体：つばさの会大阪、イシス大阪家族会、
不登校の親の会カモミール、登校拒否を克服する会北河内交流会、
みんなで作る学校とれぶりんか




連絡先：

枚方市子ども総合相談センター子ども・若者・ひとり親相談担当(直通)
　TEL ：050-7102-3227
　電子メール：
kodomocenter@city.hirakata.osaka.jp
枚方市ひきこもり家族会連絡会
（古庄　健）
　TEL ：072-859-7756
　E-mail：
kenken1222fk@gmail.com

[資料6]

# 枚方市ひきこもり等地域支援ネットワーク会議設置要綱

制定　平成 24 年 6 月 29 日枚方市要綱第 64 号
最終改正　平成 28 年 9 月 28 日枚方市要綱第 58 号

（設置）

第１条　修学及び就業のいずれもしていない子ども・若者その他の社会生活を円滑に営む上での困難を有する子ども・若者（以下「ひきこもり等の子ども・若者」という。）に対する支援を効果的かつ円滑に実施するため、枚方市ひきこもり等地域支援ネットワーク会議（以下「ネットワーク会議」という。）を置く。

（所管事項）

第２条　ネットワーク会議の所管事項（以下「所管事項」という。）は、次の各号に掲げるとおりとする。

⑴　ひきこもり等の子ども・若者の発見から支援に至るまでのシステムについて検討すること。

⑵　ひきこもり等の子ども・若者の実態を把握すること。

⑶　ひきこもり等の子ども・若者の具体的支援の内容について意見交換を行うこと。

⑷　ひきこもり等の子ども・若者に係る啓発活動を行うこと。

⑸　ひきこもり等の子ども・若者に係る連絡調整を行うこと。

⑹　前各号に掲げるもののほか、ネットワーク会議の目的を達成するために必要な事項に関すること。

（構成）

第３条　ネットワーク会議は、次に掲げる機関等で構成する。

⑴　枚方市産業文化部

⑵　枚方市健康部

⑶　枚方市福祉部

⑷　枚方市子ども青少年部

⑸　枚方市教育委員会事務局学校教育部

⑹　枚方公共職業安定所

⑺　大阪府中央子ども家庭センター

⑻　枚方市民生委員児童委員協議会

⑼　社会福祉法人枚方市社会福祉協議会

⑽　特定非営利活動法人枚方人権まちづくり協会

⑾　前各号に掲げるもののほか、市長が必要と認める機関等

（会議の種類）

第４条　ネットワーク会議における会議の種類は、代表者会議及び実務者会議とする。

２　代表者会議は、前条に掲げる機関等を代表する者として市長が適当であると認めるもので構成し、所管事項のうち総括的事項を担当する。

３　実務者会議は、前条に掲げる機関等の実務担当者のうち市長が適当であると認めるもので構成

し、所管事項のうち具体的事項を担当する。

（会議の運営）

第５条　代表者会議及び実務者会議は、枚方市子ども青少年部子ども総合相談センターが招集する。

２　代表者会議及び実務者会議にそれぞれ座長を置く。

３　代表者会議の座長には、枚方市子ども青少年部子ども総合相談センター課長の職にある者をもって充て、実務者会議の座長は、構成する者の互選によって定める。

４　座長は、会議の進行を担当する。

５　座長に事故があるときは、座長があらかじめ指名する者が、その職務を代行する。

（運営会議）

第６条　代表者会議及び実務者会議の円滑な運営を図るため、代表者会議及び実務者会議にそれぞれ運営会議を置く。

２　運営会議は、枚方市子ども青少年部その他事務局が認める機関等において選任された者で構成し、代表者会議及び実務者会議の運営に関し、必要な事項について協議を行うものとする。

（守秘義務）

第７条　ネットワーク会議を構成する者及び構成していた者は、正当な理由なしに、ネットワーク会議（所管事項の遂行に伴う活動を含む。）を通じて知り得た秘密を漏らしてはならない。

（事務局）

第８条　ネットワーク会議の事務局は、枚方市子ども青少年部子ども総合相談センターが担当する。

（補則）

第９条　この要綱に定めるもののほか、ネットワーク会議の運営に関し必要な事項は、別に定める。

附　則

この要綱は、制定の日から施行する。

附　則［平成28年9月28日枚方市要綱第58号］

この要綱は、制定の日から施行する。

# ひきこもり等子ども・若者相談支援センター
# 枚方市ひきこもり等地域支援ネットワーク会議
# 平成 28 年度の記録

平成 29 年 6 月発行


枚方市 子ども青少年部

子ども総合相談センター となとな

枚方市岡東町１２－３－４１０サンプラザ３号館４階

TEL: ０５０－７１０２－３２２８（直通）

０７２－８４３－２２５５

（ひきこもり等子ども・若者相談支援センター）

FAX: ０７２－８４６－７９５２

e-mail: kodomocenter@city.hirakata.osaka.jp